知識レベルのある学生を使って～学生企業家編～

**ベンチャーキャピタル規模**

アメリカ：出資残高総額400 億ドル（約4 兆円、1997 年）

日 本：出資残高総額1 兆円（アメリカの18％）

**アメリカ**

アメリカではエンジェルと呼ばれる個人がベンチャー資金を提供することもあるが、多くはベンチャー・キャピタルが提供する

**リスク**

リスクはベンチャー・キャピタルが負担する。創業者は一度ベンチャーに失敗しても再起不可能なダメージを受けることはない

**日本**

日本のベンチャー・キャピタルの規模は小さく、事業法人、銀行・保険会社、総合商社、外国の投資資金等が主な出し手である。日本では自己資金あるいは銀行からの借り入れでベンチャーを起こすことが多いが、金融機関はなかなか個人には融資しない。

**リスク**

リスクの多くは個人保証や連帯保証等で個人に帰属し、一度ベンチャーに失敗すると再起不可能なダメージを受ける

**日本に学生企業家が少ない原因**

1. 学生が事業を起こしてもまず資金が集まらない。それに日本では、銀行からの借り入れには個人保証や連帯保証を求められる。ある程度の資産と信用がなければ借り入れができない

②資金に対するリスクの問題である。日本では創業時、成長時においてのリスクの多くは個人に帰属するため、失敗すれば再起不可能な状態となる。失敗したときに再起できる仕組みがない日本にとって、ベンチャー・ビジネスはハイリスクであるといえる。そしてこれから社会へ踏み出す学生にとって、起業することは尚更ハイリスクである。